

福島第一原子力発電所の事故収束に向けた取り組み

福島第一原子力発電所における事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますことに、改めて心よりお詫び申し上げます。

4月に発表した事故収束に向けた当面の取り組みの「ステップ1」が終了しましたので状況をお知らせします。

基本的考え方

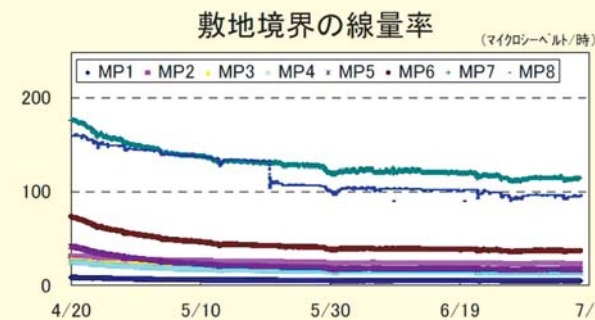
原子炉と使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組みます。⇒変更ありません

目標

ステップ1

放射線量が着実に減少傾向となっている ⇒目標達成

- ・発電所の敷地境界での放射能濃度の測定値は、原子炉建屋からの風向きで変化していないため現在の測定値は事故直後に放出された放射性物質によるものが大半と考えられます。
- ・きわめて保守的に評価しても、1～3号機から新たに放出している放射性物質の量は、事故直後と比較して約200万分の1と評価されます。
- ・モニタリングポスト（MP）が示す放射線量のデータも減少傾向にあります。



ステップ2

放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている (今後3～6ヶ月)

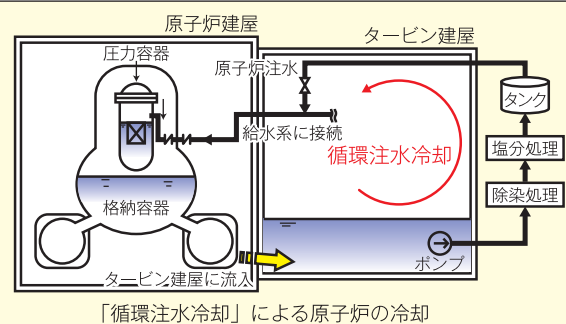
⇒変更ありません

課題の取り組み状況

引き続き、事態の収束に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

原子炉 ⇒「安定的な冷却」に到達

- ・滞留水を処理して原子炉注水のために再利用する「循環注水冷却」を開始し、複数の注水手段も確保しました。
- ・水素爆発防止のため、格納容器に窒素を充填しています。
- ・ステップ2では、循環注水冷却を継続し、原子炉を「冷温停止状態」にします。



原子炉建屋カバー ⇒1号機で工事中

- ・放射性物質の抑制を目的に、原子炉建屋をカバーで覆う工事を行っています。
- ・1号機は、9月末に完成予定です。
- ・3、4号機については、放射線量が着実に減少していることから、原子炉建屋上部のがれき撤去をまず実施する計画です。



1号機の工事

滞留水 ⇒保管場所を確保し、処理施設の運転を開始

- ・滞留水（高濃度汚染水）の浄化処理施設が稼働しました。
- ・ステップ2では、処理装置を増設し、安定稼働に努め滞留水の減少を目指します。



増設予定の処理装置（イメージ）

使用済燃料プール ⇒1、4号機で「安定的な冷却」に、2、3号機は「より安定的な冷却状態」に到達

- ・1～3号機で通常の配管から、4号機で代替の配管から注水が可能となりました。
- ・2、3号機はさらに熱交換器による循環冷却を前倒しで開始し「より安定的な冷却状態」に到達しました。
- ・4号機は7月末、1号機は8月上旬に熱交換機を設置する予定です。



2号機熱交換器